

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-163	13-041	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Event-level association between alcohol use and unprotected sex during last sex: evidence from population-based surveys in sub-Saharan Africa. 飲酒と無防備な性交について；サハラ以南のアフリカにける一般集団からのエビデンス		
執筆者		
Kiene SM, Subramanian SV		
掲載誌		
BMC Public Health. 2013 Jun 15;13:583. doi: 10.1186/1471-2458-13-583		
キーワード		PMID
アフリカ、飲酒、HIV		23767763
要 旨		
<p>目的： サハラ以南のアフリカ諸国では危険な飲酒とHIV感染は密接に関連した公衆衛生上の課題である。飲酒と無防備な性交の関係に関する先行研究は限られたものしかない。</p> <p>方法： サハラ以南のアフリカ8カ国（ケニア、レソト、モザンビーク、ルワンダ、スワジランド、タンザニア、ザンビア、ジンバブエ）において、Demographic and Health SurveysとAIDS Indicator Surveyを用いて、飲酒状況（直近の性交において男性または男性・女性両方が飲酒をしていたか）が直近の無防備な性交の危険因子であるか、男性24,512名、女性28,229名の対象者から評価した。パートナーの種類、HIV検査の結果などを交絡因子として評価した。</p> <p>結果： 南部アフリカでは、直近の性交において飲酒群のコンドームの使用割合は、男性では有意に低く（OR=0.84 95%IC 0.72-0.99）、女性でも低い傾向がみられた（OR=0.87 95%IC 0.59-1.02）。南部アフリカの男性では、この傾向は特定のパートナーとの性交について強く観察された。仮説に反して、南部アフリカ、東アフリカの両地域の男性で、不特定のパートナーとの性交時には飲酒群はコンドーム使用割合が高かった。</p> <p>結論： 本研究は、無防備な性交の要因となる飲酒の影響、またそれがパートナーの種類によってどのように変化するのか検討し、HIV感染拡大を阻止するために何が必要か示した。</p>		